

# 県中教研 技家(家庭)部会だより

第 38 号

発行日 令和5年3月  
発行所 富山市千歳町1-5-1  
富山県中学校教育研究会  
編集責任者 山崎 陽江  
題 字 金山 泰仁 先生

## 「問題解決的な学習」の充実に向けて

指導主事 矢野 優子

本年度もコロナ禍ではありましたが、「実践的・体験的な活動を取り入れた授業」「意見交流を通して考えを広げる授業」「ICTを活用し、思考や理解を深める授業」を多数参観しました。生徒に資質・能力を身に付けさせるために、先生方が様々な工夫をしておられることがうかがえました。

西部地区大会の協議会では、「題材の指導計画」について考える機会がありました。この指導計画を立てる際に大切になるのは、実生活と関連を図った「問題解決的な学習」を効果的に取り入れることです。学習指導要領解説には、問題解決のための一連の学習過程として、「生活の課題発見」「解決方法の検討と計画」「課題解決に向けた実践活動」「実践活動の評価・改善」が示されています。例えば、「生活の課題発見」の過程では、生徒に「自分の生活の中から問題点を見付けましょう」と投げかけても、なかなかできるものではありません。そのときに、小学校での学習や今までの生活経験から困ったこと、失敗したこと等を想起させる活動や、生徒にとって身近な事例を取り上げて考えさせる活動等を行うと、生徒は、生活の中の問題に気づき、自分自身で課題を設定し、意欲的に学習に取り組むようになります。具体的な活動を通して、解決する必要感や解決した達成感を味わうことで、生徒はより主体的な学びを進めていくことができるのです。そのため、授業を構想する際は、まずは、課題設定の時間を大切に、題材全体を通して「問題解決的な学習」が展開できるようにしていただきたいと思います。

学んだことを生活の中で実践しようとする意欲が高まる授業、そして、「学習したことを家で実践したら、うまくできたよ。」と生徒たちが嬉しそうに報告してくれる授業が、今後も展開されていくことを願っています。

(西部教育事務所)

## 「リアル×デジタル」家庭科の強みを生かした授業に！

部長 山崎 陽江

「かつおぶしの香りがする。」「サツマイモが甘いね。」先日、「五感が喜ぶ豚汁」を作ったときの生徒から出た一言です。デジタルだけでは補えきれない嗅覚や味覚といった五感を使ったリアルな体験の大切さを実感した瞬間でした。

文部科学省が2022年2月、今後の初等中等教育段階の教育政策の方針を示した「教育進化のための改革ビジョン」では、4つの柱のひとつとして、「『リアル』×『デジタル』の最適な組合せによる価値創造的な学びの推進」を挙げています。今年度の東西の研究授業では、まさにこのリアルとデジタルの最適なバランスが生み出す、技術・家庭科授業の効果について、多くの学びがありました。西部地区の授業では、幼児のおもちゃ、ぶんぶんごまの製作体験を通して、各自で幼児との関わり方の工夫を考えました。グループで気付いた点を一人一台端末を使ってまとめ、幼児の発達段階や安全面等にまで目を向けた具体的な意見が多く出ました。東部地区の授業では、生徒が家庭で実践した洗濯物の汚れの落とし方の工夫点を、一人一台端末を使ってまとめ、グループで発表しました。洗濯というリアルな体験を、デジタルを使って効率よく発表し、生徒はそれぞれの違いや共通点を考えながら話し合っていました。

この二つの授業から学んだように、今後は、リアルとデジタルのバランスを大切にして、デジタルを活用しながらも、家庭科が得意とする、「調理する」、「実験する」、幼児や高齢者と「触れ合う」等、デジタル空間ではできないことを意識して体験できるようにすることがより深い学びにつながると思います。また、デジタルを活用した個別最適化された学びと協働的な学びを行ったり来たりしながら考えを深めていく授業を実践していくことこそが、家庭科の「強み」になるのではないかと考えています。

(富・山室中)

# 第66回 研究大会報告

## 東 部 地 区

(魚・西部中)

魚津市立西部中学校において今井彩圭教諭による研究授業「自分や家族の願いを叶える、洗濯の仕方を考えよう」が行われた。自分や家族が日頃感じている日常着の手入れに関する悩みや疑問から課題を見だし、家庭実践を行った。この実践を基に話し合い、よりよい洗濯の仕方について新たな課題を考える活動を行った。

一人一台端末で汚れを落とす前と後の写真を撮り、汚れ落としの方法や成果についてまとめたものを班の話し合いの場面で活用した。これは他者の実践を共有し、さらなる自己の改善点を考えるのに効果的であった。また、生徒は衣服をより清潔に美しく長く着たいという気持ちで追究しており、題材全体を貫く課題「衣服を長く大切に」という視点が、次の実践意欲につながっていた。

高橋真理子主任指導主事(東部教育事務所)からは、「中学生が洗濯を身近な課題と捉えるために家族の視点を取り入れたことは効果的であった。家庭実践を基に話し合いをすることで、一人一人が自信をもち活発に情報交換をしていた。そこで得た多様な情報を各自が整理し課題解決に結び付けられるように、グループ構成や話し合いの視点を検討し焦点化していくことが大切である。」と助言をいただいた。

部会協議では、「問題解決的な学習と学習評価の充実」について、



グループに分かれ日頃の課題や悩みを出し合い、意見交換を行った。これからの実践に向けて、大変参考になる意見交換となった。今後も問題解決的な学習の指導の工夫や評価について、さらに研修を深めていきたい。

亀田 なえ(下・入善西中)

## 西 部 地 区

(砺・庄西中)

砺波市立庄西中学校において高畠萌教諭による「おもちゃ作りを通して、幼児との関わり方を考え工夫しよう」という課題で研究授業が行われた。導入で幼児の発達について既習事項を確認した後、簡単なおもちゃ作りを通して遊びの意義を考え、



幼児との関わり方の工夫を考えていくことを伝えた。前半では、生徒は幼児と一緒に関わる場面を想像しながら、生き生きと「ぶんぶんゴマ」の製作に取り組んだ。後半は製作体験を基に、幼児と一緒に製作したり遊んだりする時の接し方や関わり方の工夫について班で話し合った。生徒全員が共通の体験をすることで、話し合う土台が作られ、幼児の立場に立って考えることが出来た。また、教師のねらいに迫った発問により、生徒は本時の課題に立ち返って考えることができ、学習の中で考えが深まっていった。終末では、親子でものづくりをしている動画を視聴した。一緒に楽しむことや温かい声かけ、見守り等、生徒にとって新しい気付きがある授業だった。矢野優子指導主事(西部教育事務所)からは、以下の助言をいただいた。

- ・課題解決に向けて、「体験活動を通して個の考えをもつ」「班で互いの考えをまとめる」「全体で考えを共有する」の学習過程を設定したことにより、生徒が多様な考えに気付くことができた。
- ・ポートフォリオを用いた振り返りを取り入れることは、自分の成長や変容の気付きにつながる。その際、疑問に思ったことや納得したこと、各自が設定した課題について解明したこと等、視点を与えて振り返らせることが大切である。

今回の授業では、班ごとに生徒が話し合ったことを一人一台端末を使ってまとめて全体に提示し、互いに考えを深めた。今後もICTを活用した対話的で深い学びの充実に向けて、研究を重ねていきたい。

長谷川文代(小・石動中)